

社 会

令和6年度 授業改善のポイント

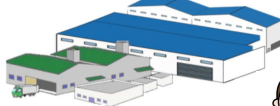
- 1 児童生徒が調べた事実を基に、社会的事象の意味を考察することができるような発問を工夫する。
- 2 児童生徒に資質・能力が身に付いたかどうかを適切に見取るために、個の考えを表現する学習場面を設定する。

調べた事実を基に、社会的事象の意味を考察させる発問の工夫

【指導事例】「自動車をつくる仕事」(小学校第5学年) ※全8時間 []は配当時数の例

自動車工業の概要 → 単元の問いの設定 → 学習計画 [2]

大工場の資料 1日2000台を生産 製造の工程に着目して問いを見いだす



2000台!? すごい数だね

〈発問〉なぜ、毎日2000台もの自動車をつくることができるのだろう。

〈予想〉

機械やロボットを使って たくさんの人が協力して作業をしているからだと思います。

単元の問い

自動車をつくる人々は、たくさんの自動車をつくるためにどのような工夫や努力をしているのだろう。

気付かせたい事実を絞り、問いを焦点化することで、自動車生産の「量」や「速さ」に着目できるようにします。

ICT

見学での活用例 (インプットの場面)
・直接見学してタブレット端末で撮影
・オンラインによる見学

資料作成の手立ての例 (アウトプットの場面)
・写真やグラフに読み取りのポイントを書き込む。
・資料の伝えたい部分を拡大して示す。

デジタル付箋等を活用した話し合い (双方向の活動の場面)
→発表が苦手な児童生徒の意見も加わり、全員が参加する学びにつながる。

オンライン工場見学 → 動画や教科書等による調査 [2]

「個で活動」しながら「児童が必要に応じて協働」して調べる活動

〈調べる場面の例〉

個で調べながら、自由に友達と相談したり教師に質問したりする。



〈表現する場面の例〉

考えがまとまったら、「紹介コーナー」などで少人数で紹介し合う。

調べたことを基にした話し合い [1] 人々の工夫や努力を捉える

ポイント1 社会的事象の意味を考察させる発問例

発問

付箋に書いた「工夫や努力」には、それぞれどんな目的があるのだろう。

調べたことについて、それぞれの工夫や努力の目的(何のために)を考えさせます。

指示

考えたことを基に、付箋をXチャートに分類してみましょう。

思考ツールを活用し、情報を分類します。

発問

たくさんの自動車をつくる上で、特に大事なキーワードはどれだろう。

単元の問いの「たくさん」に着目させ、思考の焦点化を図ります。

「特に…」と問うことで、個の考えを深めます

重要 調べたことを根拠に「何がいえるのか」を考察するための発問を工夫することが大切です。

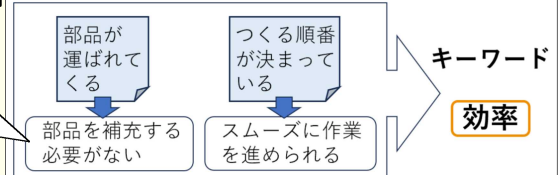
ポイント2 個の考えを表現する学習場面の設定

発問

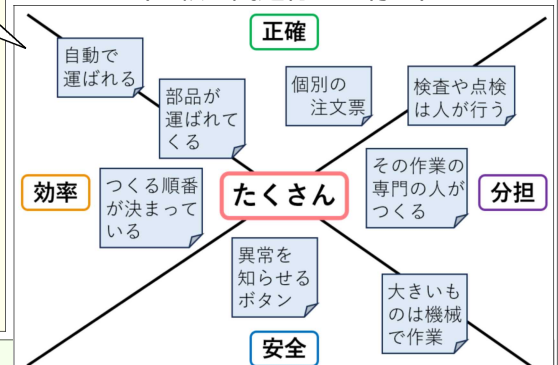
選んだキーワードに、「例えば…」とつなげてまとめてみましょう。

全体でのまとめに続けて、「例えば…」と具体例をまとめさせることで、一人一人の学習状況を見取ることができます。

〈調べた事実の目的を考察〉



〈比較・関連付けを行う〉



〈全体での話し合いを基に、個でまとめる〉

自動車工場では、たくさんの自動車を生産するために、効率よく作業を進める工夫や努力をしています。例えば…